

JOMF 派遣医師便り (2014. 6)

◆マニラ◆

日本は夏、フィリピンではインフルエンザ流行の季節です！

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

日本ではインフルエンザの流行時期になると人々は感染予防対策を始めます。それにもかかわらず、日本では年間に数百万人～1千万人以上がインフルエンザに罹患し、一部の患者さんでは肺炎や脳炎に進展し毎年1万人以上がインフルエンザで死亡しています。この死亡者数は年間交通事故死亡者を上回る数字です。「インフルエンザは単なる風邪」ではありません。

日本では夏真っ盛りですが、フィリピンではインフルエンザが流行する時期が近づいています。今日は日本の方には意外と思われる“真夏に流行するフィリピンのインフルエンザ”についてお話しします。

なぜ真夏なのにインフルエンザの話題なの？と不思議に思われるかもしれませんが、日本のような温帯地域では「インフルエンザは冬の乾燥した時期に流行しやすい」と言われています。「低温、低湿度の方がインフルエンザウイルスの活動性は活発である」というのが理由の一つとして考えられています。しかしWHOの報告にもあるように、フィリピンを含む北半球の熱帯・亜熱帯地域では「インフルエンザの流行は雨季（日本の夏）に起こりやすい」ことが分かっています。

マニラの日本人社会においても近年では8月～9月頃に流行が起こっています。熱帯・亜熱帯地域ではなぜ雨季に流行し、日本では冬の乾燥した時期に流行するのか、多くの研究者が原因を探っていますがまだはっきりした理由は分かっていません。

しかし“流行”にかかわる一つの因子として“人の移動”が関わっていることに疑いはありません。たとえば一時帰国や学生の移動です。昨年はマニラ日本人学校の夏休みが終わり、新学期が始まったころから患者数の急激な増加が見られました。

インフルエンザの症状で“マニラ特有の症状”があるわけではありませんが、高熱のみを訴えて来院される患者さんや、発熱を伴う下痢を主訴に来院する患者さんもおられます。当地ではこのような場合、デング熱やアメーバ赤痢・食中毒、腸チフスなどとの鑑別も必要になります。インフルエンザは一般の風邪より重症感が強く、治療をしなければ高熱が5日前後続き、回復までに通常でも1週間から10日かかっています。

マニラで調達できる抗インフルエンザ薬はOseltamivir（タミフル）のみですが、現時点では非常に効果があると考えます。

インフルエンザは予防が第一です。普段からの体調コントロールとともに手洗い、ワクチン接種などがとても大切です。患者さんはマスクをするなどの「咳エチケット」にもご協力ください。

小さな地球です。感染症の流行は一つの地域だけの予防では克服できません。世界の人々の協力が必要です。

夏真っ盛り、インフルエンザの感染にも十分に気を付けて、皆様どうぞお元気でお過ごしください。(2014年6月10日記)